



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

急性期病院治療後、その先に…

〔当法人評議員〕

杏林大学医学部付属病院

浅間 泉 [看護師]

私事で恐縮ですが、昨年家族が頭部外傷で緊急手術を受け、突然患者家族の立場になりました。

大学病院での治療は、各診療科医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、検査技師、放射線技師等多職種のチーム医療に支えられました。入院2ヶ月目で、医療ソーシャルワーカーと退院調整面談をしました。転院先の条件は、病院所在地、治療継続内容、リハビリテーション頻度、在院可能期間、費用負担面等です。

既に入院60日以上が経過しており、医療保険制度上意識レベル要件も含め回復期リハビリテーション病院・病棟ではなく、選択できるのは、療養型病院のみでした。家族としては、長期的にみて意識回復の期待もあり、治療継続とリハビリテーションが実施できる施設を要望しました。また、大学病院では、安全上身体的拘束を優先せざるを得ませんが、施設の身体抑制をしない方針も選択した理由のひとつです。一方、急変時の対応はできないことも条件でした。候補病院の決定迄と家族が直接病院に連絡し面談に行きますが、転院先が決定する迄、数ヶ月を要し、長引く理由が分かりました。転院待ち中は、在院日数が延伸し、病棟に申し訳ない気持ちと若干見放された感覚もありました。半年後、転院先が決まり安堵しましたが、医療療養病棟で全身管理が長期的に必要であり、懸念もありました。転院当日に、急変意向確認書の署名を求められ少し戸惑いました。

転院後は、実施計画書に基づき、リハビリテーションを行うことができましたが、医療保険制度上、リハビリテーション回数にも制約があることも知りました。そして、転院先では、当然ながら夜間休日の当直は他施設医師の輪番制で、侵襲を伴う医療処置は他施設で実施することや看護体制等、ハード・ソフト両面の施設の実情を垣間見ることができました。

一方で、昨年から医療を取り巻く環境の議論があります。診療科や医師の偏在を巡る問題や地方中心に病院の閉鎖や統合、規模縮小が相次いでいますが、都内でも例外ではありません。武蔵野市では、2次医療圏病院の閉鎖や中小病院が外来クリニックに転換していることを報道で知りました。病院設備の老朽化で建て替えは、経営上厳しい現実問題です。

我が国は、医療法で病院の人員配置基準等が決められていますが、2次医療圏の急性期病院が40%以上と最も多いのです。しかしながら、急性期治療を終えたその先の療養型病院の医療提供体制の更なる整備が必要であると家族の立場を経験し感じました。



読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 経口血糖降下薬について誤っているのはどれか、2つ選べ。

(答えは3ページにあります)

1. α -グルコシダーゼ阻害薬の中にはアミラーゼ阻害作用をもつ薬剤もある
2. ビグアナイド薬は乳酸アシドーシスのリスクからeGFRに応じた上限量が存在する
3. イメグリミンの主な副作用は肝障害である
4. SGLT2阻害薬によるケトアシドーシスは正常血糖の場合は血糖が上昇するまで様子を見る
5. グリニド薬は短時間作用の為、単独投与による低血糖のリスクは中程度である

報告

第15回ブルーライトアップ

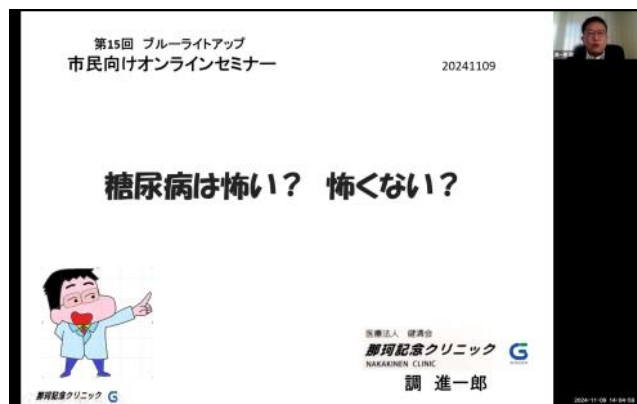
日時: 令和6年11月9日(土)
オンライン

[当法人業務執行理事] 東京都立多摩総合医療センター 佐藤 文紀 [医師]

令和6年11月9日土曜日に、「第15回ブルーライトアップ市民向けオンラインセミナー」が開催されました。昨年まではスカイタワー西東京の会議室を利用してリアル開催していましたが、その会議室が利用できなくなった等の諸般の事情により、今回は初めてオンラインでの開催となりました。

特別講演では、那珂記念クリニック副院長の調 進一郎先生より「糖尿病は怖い？ 怖くない？」という演題でご講演いただきました。《日本人の死因の上位である、がん、心臓病、脳卒中を予防したり、認知症を予防したりするには、喫煙、アルコール摂取、食事、肥満、運動に注意する必要があるが、これは糖尿病の治療そのものである》《これらにしっかり対策をしていけば糖尿病は怖くない！》という内容でした。市民向けのご講演ではありましたが、糖尿病診療における生活習慣の大切さを再認識いたしました。

尚、セミナーとしてはオンライン開催でしたが、スカイタワー西東京のブルーライトアップは11月14日に例年通り実施されました。次回の実行委員長は熊倉医院の熊倉 淳先生です。熊倉先生のもと、来年も盛会となることを祈念しております。



報告

第25回西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会

日時: 令和6年12月7日(土)
立川相互病院

令和6年12月7日(土)に「第25回西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会《ハイブリッド研修》」を立川相互病院2階講堂にて開催いたしました。テーマを『1型糖尿病の診断』とし、3人の先生にご講演を戴き、会場とWeb合わせて68名にご参加いただきました。

一般講演①では東京医科大学八王子医療センター 田中 雅彦先生より「発症時に著明なインスリン分泌不全」を認め診断が困難だった2症例について、クイズを交えてご講演いただきました。一般講演②では多摩センタークリニックみらい 岡崎 太一先生より血糖コントロールに際して認知症が問題となる症例において、薬物治療の選択肢や他科との連携など多様な視点からクイズを交えてご講演いただきました。参加者の皆様にもクイズ投票に加わっていただき、投票結果を元にした議論は大変活発なものとなりました。特別講演では1型糖尿病の診断と治療でご高名な埼玉医科大学 及川 洋一先生より、緩徐進行1型糖尿病を含めた診断と治療について最新の知見を交えてご講演いただきました。

本講演会は諸般の事情より今回をもちましてしばらく休会となる予定でございます。ご参加いただきました皆様にはご迷惑をお掛け致しまして申し訳ございませんが、何卒ご了承くださいたくお願い申し上げます。





第28回日本病態栄養学会学術集会

令和7年1月17日(金)～19日(日)

国立京都国際会館

[当法人会員]

公立昭和病院

村田 里佳 [管理栄養士]

令和7年1月17日(金)～19日(日)にかけて、国立京都国際会館にて開催された「第28回日本病態栄養学会年次学術集会」に参加しました。今回のテーマは「病態栄養学の深化と広がり」—健康福寿社会の実現をめざして—でした。今回の学会では、高齢化社会における栄養管理の重要性が多くのセッションで取り上げられ、「高齢者」「低栄養」といったキーワードが頻繁に聞かれました。以下に、学会で得た重要な知見や学びを共有します。

1. 広い視点でのアセスメント能力の重要性

高齢者の栄養状態を評価する際には、検査データや体重変化と合わせて、ADL、生活背景、社会的サポート体制など多角的な視点でのアセスメントが求められることを改めて実感しました。今後取り入れていきたいと感じたことは、患者の動作の観察をアセスメントに活用することです。例えば栄養相談室へ患者を誘導する際には、椅子からの立ち上がり動作を確認、体重測定の際には、重心移動の安定感、栄養相談室までの移動の際には歩行速度などをアセスメントの一環として取り入れることは、実践的な視点であると感じました。

2. 多職種連携の重要性

サルコペニアや筋力低下リスクがある患者の栄養管理について、管理栄養士が医師と連携し、薬剤調整や栄養プランの立案を行う必要性が強調されていました。具体的には、SGLT2阻害薬を内服する患者の食欲低下や筋力低下リスクに対して、早期にチームで介入する重要性を再確認しました。

3. People-Centered Careの広がり

糖尿病の支援では以前より重要視されてきた考え方ですが、患者個々の価値観を尊重しつつ、患者主体の支援が、他の領域でも浸透しつつあることを実感しました。

4. AIの活用と限界

アプリ体験会では、性別、年齢、検査データを入力することで、12カ月後の血糖上昇リスクや低血糖発生リスク、腎機能ステージを予測できるツールを活用した症例検討会が開催されました。こうしたAIツールは患者支援の強力な補助となりますが、患者の気持ちに寄り添い、柔軟な対応を行うためには、やはり人間の関与が不可欠であることを痛感しました。

今後の実践への活用

・患者個々に合わせた療養指導の深化

広い視点でのアセスメントを日々の実践に取り入れ、患者の背景や動作、生活環境に応じた支援を心がけたいと思いました。

・多職種連携の推進

医師や看護師、薬剤師との連携を強化し、チーム医療の一員として積極的に役割を果たしていきたいです。

・AIツールの活用

AIを活用した新しい支援方法を導入しつつ、人間らしい温かみのある支援を両立させること大切にしていきたいと感じました。

おわりに

今回の学会は、現地で多くの医師・管理栄養士と交流する貴重な機会となり、新たな視点や知識を得ることができました。興味深いテーマが多く、すべてのセッションを聞くことはできませんでしたが、オンデマンド配信を活用しながらさらに学びを深めたいと考えています。これからも患者一人ひとりに寄り添い、質の高い療養支援に取り組んでまいりたいと思います。

読んで
単位を
獲得しよう

答え 3, 4 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

- 3: × イメグリミン: グルコース濃度依存的なインスリン分泌作用と、インスリン抵抗性改善作用により血糖降下作用を示し、ミトコンドリアを介した作用が想定されている。副作用として胃腸障害(悪心・下痢・便秘など)があり、ビッグアナイド薬との併用で胃腸障害が多くなる傾向に留意する。
- 4: × SGLT2阻害薬: 近位尿細管で再吸収されるブドウ糖90%はSGLT2によるもので、近位尿細管に発現するSGLT2を阻害しブドウ糖の再吸収を抑制、尿からブドウ糖を体外に排泄し血糖を低下させる。このため血糖値が正常でもケトアシドーシス(正常血糖ケトアシドーシス)が起こりうるので、その際は速やかに対処することが重要である。

研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 主催事業
 ☒ 共催・後援事業
 ☐ その他

2025年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

◆ 第21回 西東京教育看護研修会

申込必要

テーマ：『今日から得意になる“1型糖尿病看護”～基礎知識から最新の治療・支援、病気がある人のホンネ～』

開催日：2024年7月13日（日）9：25～16：40

会場：Zoomにて開催いたします

オンライン

参加費：早割[申込開始～6/1] 6,000円 / 通常[6/2～6/30] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」又は「新着情報」よりお申し込みください（6/30締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第1群＞：申請中

◆ 第21回 西東京病態栄養研修会

申込必要

テーマ：『乗り遅れるな！ICTを活用した栄養指導』

開催日：2024年7月13日（日）9：25～16：30

会場：Zoomにて開催いたします

オンライン

参加費：早割[申込開始～6/1] 6,000円 / 通常[6/2～6/30] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」又は「新着情報」よりお申し込みください（6/30締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第1群＞：申請中

☆病態栄養専門管理栄養士認定更新のための研修単位：申請中

☆日本栄養士会生涯教育実務研修（臨床栄養分野）：申請中

◆ 第21回 西東京薬剤研修会

申込必要

テーマ：『糖尿病薬の最新情報』

開催日：2024年7月13日（日）9：25～16：30

会場：Zoomにて開催いたします

オンライン

参加費：早割[申込開始～6/1] 6,000円 / 通常[6/2～6/30] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」又は「新着情報」よりお申し込みください（6/30締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第1群＞：申請中

☆日本くすりと糖尿病学会P認定：申請中

◆ 第9回 西東京臨床検査研修会

申込必要

テーマ：『“ダイアベティス”と臨床検査』

開催日：2024年7月13日（日）9：25～16：30

会場：Zoomにて開催いたします

オンライン

参加費：早割[申込開始～6/1] 6,000円 / 通常[6/2～6/30] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」又は「新着情報」よりお申し込みください（6/30締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第1群＞：申請中

☆日臨技生涯教育点数（自己申告）：申請中

◆ 第9回 西東京運動療法研修会

申込必要

テーマ：『糖尿病診療ガイドライン2024から紐解く「運動療法の再考」』

開催日：2024年7月13日（日）9：25～16：35

会場：Zoom / 立川相互病院 講堂（JR中央線「立川駅」北口下車 徒歩8分）

ハイブリッド

参加費：早割[申込開始～6/1] 6,000円 / 通常[6/2～6/30] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」又は「新着情報」よりお申し込みください（6/30締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第1群＞：申請中

☆健康運動指導士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位：申請中 ※現地開催のみ

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返答にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00～12:00/13:00～16:00にお電話くださいますようお願いいたします。

《 年会費納入がお済でない方はお急ぎください 》

2025年度年会費は、ご自身のマイページ「年会費納入のお願い」よりご納入いただけます。

会員継続される方は、3月31日(月)までにご納入をお願いいたします。



研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 主催事業 ☒ 共催・後援事業 ☐ その他

◆ 糖尿病災害対策委員会 第12回医療者向けセミナー

申込必要

テーマ：『糖尿病患者の為の災害時の備えupdate～災害支援経験者から学ぼう～』

開催日：2025年3月7日（金）19:20～21:00

会場：Zoomにて開催いたします

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（3/7締切）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

参加費
無料

オン
ライン

◆ 第55回東糖協多摩ブロック糖尿病教室 第29回西東京糖尿病患者会連合特別講演会

申込不要

テーマ：『糖尿病を勉強しませんか？～正しい知識があなたの未来を明るくする～』

開催日：2025年3月8日（土）14:00～16:00

会場：三鷹産業プラザ 7階（JR中央線「三鷹駅」南口下車 徒歩7分）

問合せ：㈱三和化学研究所（担当：折小野） TEL：03-3232-0571

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中

参加費
無料

◆ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第78回例会

申込必要

テーマ：『糖尿病と心疾患』

開催日：2025年3月17日（月）19:20～21:00

会場：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 無料 / 一般 2,000円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（3/17締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

参加費
無料

オン
ライン

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/ Email:info@cad-net.jp

編集後記



新型コロナの話題がニュースから消え、インフルエンザの猛威やマイコプラズマの流行が書きたてられていましたが最近ではヒメタニューモがちらほら…。重症化する人が少ないのでニュースでは騒がれませんが侮れません。当院では多種病原体同時測定で検査することが多く、結構検出されます。花粉症の時期でもありますから「マスク」と「うがい」はまだまだ続けた方がよさそうです。（広報委員 櫻井 勉）



一般社団法人

臨床糖尿病支援ネットワーク

Clinical Assistance of Diabetes Network